令和２年度　３年英語表現Ⅱ（文理共通）　臨時休校中の課題（５月分）　解答・解説

問題番号	解　　答　・　解　　説
1	①　現在の習慣的動作は現在形で表す。usually に注目する。
2	④　現在進行形で「～しかけている」を表す。②や③だと、B の save と矛盾する。
3	about to fall asleep when　　be about to do で「まさに～するところだ」を表す。
4	②　時や条件を表す副詞節では、たとえ未来のことであっても現在形で表す。
5	③　過去の事実が現在とつながっている現在完了形を選ぶ。
6	③　未来のある時点（then）までに動作が完了することを表す未来完了形を選ぶ。
7	①　プラットフォームに着く前に電車が到着していたので、過去完了形を選ぶ。
8	④　It is[has been] 時間 since ~ で「～してから（時間）になる」を表す。
9	①　受動態（be＋過去分詞）の形を用いる。
10	③　laugh at ~（～を笑う）の受動態。前置詞 at を落とさない。
11	②　現在完了形の受動態は「have been＋過去分詞」で表す。
12	③　be interested in ~ing で「～に興味がある」を表す。
13	was made to go against his will　使役動詞 make の受動態。前置詞 to を用いる。
14	①　会話の流れから、must が最も適切。
15	③　「～しなければならなかった（過去）」を表すときは had to を用いる。
16	had better do it before you go out　　had better は「～した方がよい」を表す。
17	③　必要・要求を表す形容詞を使う場合、that 節内の助動詞は should を使う。
18	would like to work with children in　　would like to do で「～したい」を表す。
19	①　must have＋過去分詞 で「～だったに違いない」を表す。
20	④　過去のあるときに実際にその行為や動作を行った場合は、be able to do を用いる。
21	②　please 以下の部分が命令文なので、if 節内の動詞は直説法で表す。問題 4 も参照。
22	wouldn't have got so wet if I had left ten minutes later　仮定法過去完了の基本形。
23	①　仮定法過去完了の変化形。主節に still や now があったら要注意。
24	③　「もし私があなたなら」を表す場合、be 動詞は原則 were を使う。
25	③　If 主語 <u>were to</u> do ~, 主語＋助動詞の過去形＋動詞の原形･･･仮定法表現の一つ。
26	I were　　I wish＋仮定法過去 で現在の事実と反対の事柄の願望を表す。
27	①　would rather (that) 主語＋動詞の過去形 で「～すればいいのに」を表す。
28	③　It is high time＋仮定法過去 で「～してもよい時間だ」を表す。
29	②　if it were not for ~で「(今）もし～がなければ」を表す。主節は仮定法過去を使う。
30	③　接続詞 if が省略されると、主語と動詞の語順が逆転する（倒置)。
31	④　仮定法での with は「～があれば」の意味になる。反対は without（～がなければ)。
32	go to a hot spring has　　不定詞の名詞用法で、ここでは主語の役割をする。
33	I don't know what to say　　疑問詞＋to 不定詞の形。what to do は「何をするべきか」。
34	③　不定詞の形容詞用法。直前の the courage を説明する。
35	④　不定詞の副詞用法。ここでは感情の原因で、意味は「～して」を表す。
36	to have mistaken me for somebody else　完了不定詞（to have＋過去分詞）を使う。

37	because I'm feeling too tired to start cooking too ~ to do で「とても～なので…できない」を表す。
38	② 既に出た動詞表現の繰り返しを避けるため、to 以下を省略している（代不定詞)。
39	② needless to say「言うまでもなく」は独立不定詞と呼ばれる表現。
40	② All you have to do is (to) do ~ で「あなたは～しさえすればよい」を表す。
41	① be＋to 不定詞の形。いくつか意味があるが、ここでは「義務」を表す。
42	④ 動名詞「～すること」の基本。rush to do は「あわてて～する」を表す。
43	④ look forward to doing（×do）で「～することを楽しみにする」を表す。
44	no telling　There is no doing で「～できない」を表す。
45	④ in doing で「～するときに、～している間に」を表す。
46	② be worth doing で「～する価値がある」を表す。
47	② need doing で「～される必要がある」を表す。
48	③ 現在分詞（~ing）や過去分詞（~ed か不規則変化）が名詞を説明するとき、1 語単独の場合は名詞の前に置く。2 語以上の場合は名詞の後ろに置く。
49	③ 分詞が補語として使われる。英文から she と surround は受動関係なので、過去分詞を用いる。
50	③ 分詞が目的語として使われる。英文から you と wait は能動関係なので、現在分詞を用いる。
51	④ 分詞構文。否定語は分詞の直前に置く。
52	permitting　分詞構文を使った表現。weather permitting「天気が良ければ」
53	① 付帯状況の with。腕（his arms）は勝手には動かないので folded（受動形）を選ぶ。
54	③ 比較表現。as 原級 as ~で「～と同じくらい…」を表す。
55	④ 倍数表現。…times（2 倍は twice）as 原級 as ~で「～の〇倍…」を表す。
56	① as 原級 as anybody で「誰にも劣らず～」を表す。
57	more important than the religious　比較表現の基本形。比較級 than の表現。
58	looks much younger than he really is　much には比較級を強める働きがある。
59	③ the＋比較級＋of the two で「2 人（2 つ）の中でより～」を表す。
60	③ none other than ~で「ほかならぬ～」を表す。
61	④ be senior to ~で「～より年上だ」を表す。反対は be junior to ~「～より年下だ」。
62	more reluctant than before to 比較表現（than before）を早く示すため、比較級のすぐ後ろに置くことがある。
63	① 最上級表現の基本形。
64	any other　比較級 than any other 単数名詞 で最上級の意味を表すことができる。
65	② one は可算名詞の反復を避ける代名詞。a[an]＋可算名詞の単数形を表す。
66	② that は名詞の反復を避ける代名詞。the＋単数名詞の単数形を表す。
67	think it better not to go out　形式目的語を用いた表現。
68	that, met　It happens that 節は「たまたま～する」を表す。
69	④ as such で「そういうものとして」を表す。
70	④ 比較しているのはジャケットなので、your jacket を表す yours を使う。

71	③　two policemen と but に注目。2 人とも助けることができなかったと理解できる。
72	①Each of the girls　　each of の後ろには定冠詞の the が必要。
73	③　対象物が 2 つ（2 人）の場合、一方は one で、もう一方は the other は表す。
74	②　この most は「ほとんどの」という意味を表す。
75	nothing　　have nothing to do with ~で「～と何の関係もない」を表す。
76	④　so は be afraid や think などの動詞の後ろに置き、that 節の代用をする。
77	ourselves　　enjoy は原則他動詞。oneself を目的語に置いて「楽しむ」を表す。
78	whom I met yesterday was　　目的格の関係代名詞。
79	④　所有格の関係代名詞。whose は his bicycle の his を表す。
80	the great advice you gave me　　目的格の関係代名詞 which が省略されている。
81	③　Read the passage.と I referred to it in my lecture.が合わさった文。 前置詞 to が関係代名詞 which の前に来た形。refer to ~「～に言及する」も重要。
82	③　空所以下の文は元々The houses were on fire <u>in the street</u>. 場所を表す in も関係詞の中に含まれているので、関係副詞 where を使う。
83	the reason why they were late for　　関係副詞 why を使った the reason why ~の表現。
84	④　関係代名詞の非制限用法。先行詞（John）を補足している。that は使えない。
85	owe what I am to　owe A to B「A は B のおかげだ」、what I am「今の私」を表す。
86	③　who と rescued の間に I think が入り込んだ形。
87	②　as is usual with ~「～にはいつものことだが」を表す。
88	②　複合関係代名詞の一つ。ここでは「～するものは何でも」を表す。
89	①　複合関係代名詞の一つ。however 形容詞＋主語＋動詞で「どんなに～でも」を表す。
90	④attending　A or B の A が going to ~つまり動名詞なので、B の部分も動名詞にする。
91	①　接続詞 but を入れると、意味が通る。
92	①　both A and B で「A も B も両方とも」を表す。
93	②　it が thought(think)の形式目的語で、that 以下が本来の目的語を表す。
94	③　in that S+V で「～する点で」を表す。
95	②　It will be long time before S+V で「～するのに長い時間がかかるだろう」を表す。
96	①　the moment S+V で「～するとすぐに」を表す。
97	①　not ~ because …で「…だからといって～ではない」を表す。
98	③　unless は「～でなければ、～でない限り」を表す。
99	①　譲歩を表す although を入れると、意味が通る。
100	so many to choose from that I was　　so ~ that …で「とても～なので…」を表す。

〔Extra Question〕

（例）He is twelve years older than me.　He is older than me by twelve years. など

（解説）「一回り」をそのまま訳そうとすると意味の通らない英文になるので、別の言葉に変える必要がある（この方法を「和文和訳」といいます)。ここでの一回りとは「干支が一回り」、つまり 12 歳離れていると考えることができるので、上記の英文が考えられる。

（アドバイス）

和文英訳するとき、日本語を一字一句訳そうとすると不自然な英文になりがちです。その際には、意味が変わらない程度に言いかえる必要があります。つまり、和文英訳の前に和文和訳をします。

ただし、**その和文和訳ができるようになるためには、多くの言葉を知っていなければなりません。**私たちの母語である日本語を、皆さんは正しく使っていますか。今のうちから日本文をじっくり読む習慣をつけるとともに、貪欲に言葉をインプットして使えるようにしましょう。